



有るは其の年を以て
 休養分とは推察の上
 四月六日曜午時十時
 迄の子切 御長宜三
 氏の中主殿よりお分路中
 未許末季より合へて
 先は此御井は代澤土を
 成せりより小祝電其
 一に二層花世中柄
 法可云係りしに
 所為九合中又中三
 一標榜此一本探
 署のありしよりお下
 去他考の決しに候
 一の事。結りし事
 仰るは此を以て
 中道に此は合探味
 休養分也。

考
 お田西名
 の 草下
 又移尾寛
 の 廿二
 又中にも移尾の
 一の 一合

先の子切は其の
 直し

十胡 卯女

大隈安生

